

# はくびつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM

VOL 4 NO2 1979. 5. 1

平塚市博物館 TNO 37



5月の花 ヤマツツジ

5月に入ると、山の緑もすっかりおちついて、日に日に色を濃くしていきます。林の木陰に、ぼつぼつと灯りをともしたように、淡い朱色のヤマツツジの花が咲くのもこの頃です。野生のツツジにはたくさんの種類がありますが、低い山にも生え、市内で見られるのはヤマツツジだけです。クロアゲハがよく蜜を吸いにきています。

## ----- 5月の行事 -----

### ●星を見る会

月を見よう

日時 5月2日(木曜日) 午後6時~8時

### ●自然観察会

初夏の自然をたずねて(高麗山)

日時 5月20日(日曜日)午前9時~午後3時

申し込み 5月10日までに往復ハガキで

定員 30人 多数のときは抽選。

## ----- 6月の行事 -----

### ●体験学習シリーズNo.31「足半を作ろう」

ワラでアシナカ(ハナムスピともいう)を作つてみましょう。

日時 5月20日(日曜日) 午前10時~午後3時

申し込み 5月10日までに往復ハガキで

定員 20人 多数のときは抽選。

### ●星を見る会

「太陽黒点を調べよう」

日時 6月3日(日曜日)

午前11時30分~13時

申し込み 5月25日まで往復ハガキで。

定員 20名 多数のときは抽選します。

## ●体験学習シリーズNo.32 土器をつくろう。(縄文土器の製作)

日時 6月7木・13水・14木曜

午前10時~午後4時

申し込み 5月31日までに往復ハガキで。

定員 15名 多数のときは抽選します。

## ●博物館資料の寄贈・寄託案内

博物館では、博物館資料の寄贈・寄託を受付けております。資料の提供をお考えの方は、一度博物館へご相談ください。

## ●自然観察会

### 植物のスケッチ(吉沢)

日時 6月10日(日曜日)

申し込み 5月31日まで往復ハガキで。

定員 30名 多数のときは抽選します。

## ●行事参加案内

体験学習・自然観察会・星を見る会などへ参加ご希望の方は、往復ハガキにかならず氏名・年令・住所・電話を明記のうえ、原則として参加者1名に往復ハガキ1枚でご応募ください。

## ●寄贈品コーナー展示替えのお知らせ

テーマ: 化石のいろいろ

期間: 5月30日まで

内容: 現世から50万年前にわたる、いろいろな時代の貝化石172点を中心として、哺乳動物化石、魚類化石、サンゴ化石、三葉虫化石、植物化石などを展示しています。



## ●全館くん蒸についての予告

博物館では、年に1回、虫がふ化して活動はじめると時期をねらって全館内の殺虫処理を行います。今年も、それが6月下旬に予定されておりますが、休館日等の日程については、6月号の「はくぶつかん」にくわしくお知らせいたします。

## ●人事異動のお知らせ

管理係主任 笹尾正雄が図書館へ異動。

後任として、福祉課より管理係主任 村山昇が異動しました。

平塚市浅間町12-41 平塚市博物館  
TEL 33-5111(代表)

## ●今年度「はくぶつかん」の編集について

今年度「はくぶつかん」は原則として4ページだけとし、1・2ページは、従来どおり博物館行事案内を主とした広報活動を中心に、3・4ページは各担当学芸員による常設展示室の展示解説をかねた最新の情報を提供する紙面にしていきたいと思います。

## ●出版ニュース

博物館資料No.16 自然と文化 第2号

博物館資料No.17 平塚市須賀の民俗

博物館資料No.18 久保田遺跡他遺跡詳細分布調査報告 - 沖積低地の遺跡確認調査 -

博物館資料No.19 二宮層産貝化石目録

博物館資料No.20 家と村I - 平塚市広川 -

博物館資料No.21 平塚市資料所在目録 - 金田地区 -

以上が、出版および出版予定になっております。配布等については、まだ決定されておりません。おつまみの内容を次号以下の「はくぶつかん」でお知らせいたします。

# まち 街の生きものたち

## 変わりゆく自然

平塚も都市化が進みつつあると言われます。都市化が進むと、木立がなくなる、田畠がなくなる、人家が密集する、地面がコンクリートにおおわれるなど、大きな自然の変化が起こります。それにつれて多くの生き物は姿を消してしまいます。ホタル、カブトムシ、カタツムリなど子供たちに親しかった動物も今ではあまり見かけることができません。一方、都市化の波の中でたくましく生き残り勢力を広げている生き物もいるのです。



## 建物に巣を作る鳥の話

一昨年の夏のことです。平塚競輪場で一つがいのキジバトが、日よけ屋根を支える鉄骨の上に巣を作ったのを、当時競輪場の職員だった熊本征平氏が発見されました。同じ時期にカワラヒワも、屋根のすき間でひなを育てていました。

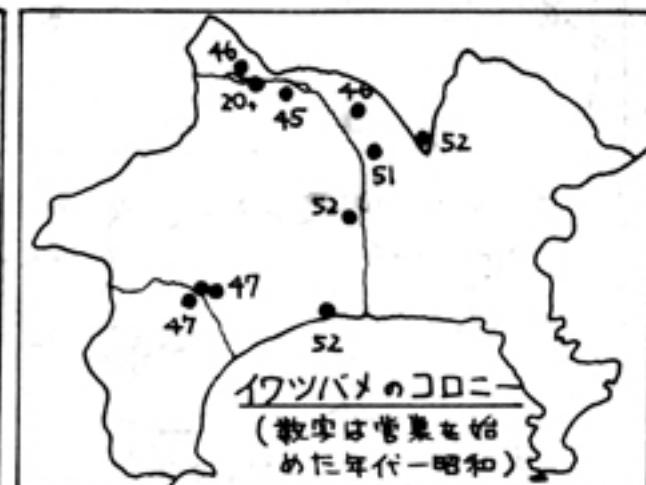
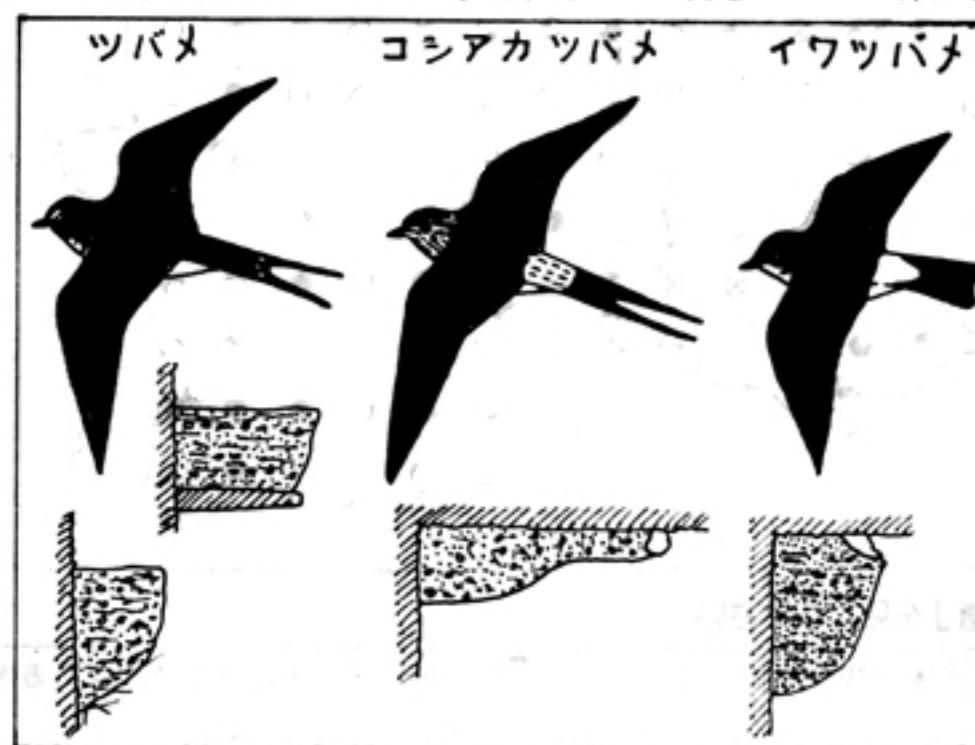
キジバトやカワラヒワはどこにでもすんでいる身近な鳥ですが、建物に巣を作ったのが発見されたのは、日本中で初めてのことでした。その後キジバトでは、川崎市や中野区で同じような例が観察されました。

建物に巣を作る鳥といえば、スズメやツバメを思い浮かべますが、こうした鳥もかつてのある時代に、すみ家を人間に頼るようになってきたわけです。キジバトなどでは、今、そうした変化が

起つつつあるのかもしれません。

また、ツバメのなかにイワツバメという種類があります。神奈川県にいる3種類の中では、尾が短かく腰が白いのが特徴で、大きな建物や橋げたに集団で巣を作ります。県内ではあまり見かけない鳥でしたが、一昨年、大磯の西湖バイパスの橋げたの下に巣を作っているのが見つかりました。それをきっかけに県内を探してみたところ、下図の場所にコロニー（集団で巣を作っている所）が見つかり、近年分布を広げていることがわかりました。

人工的な物に生活のある部分を頼るということは、都市化の波の中で生き残る一つの条件といつてもよいのかもしれません。自然の変化は、鳥の世界にもいろいろな影響を与えていくのです。



## タンボボの話

春の野を彩るタンボボは、誰にとっても親しみ深い花の一つでしょう。このタンボボに、日本に昔からあった種類（在来種…平塚ではカントウタンボボ）と、近年外国から日本に入ってきた種類（帰化種…セイヨウタンボボ。細かくいと2種類ある）のあることも、ご存知の方が多いでしょう。そして、都市化の進んだ所ではセイヨウ、農耕地周辺ではカントウが多い傾向があります。

平塚市内ではこの2種類の分布がどうなっているのか、昨年の春、協力者を募って調査を行いました。調査には小中学生や主婦の方など、30名をこえる参加があり、大まかな分布のようすをつかむことができました。

下の図にある通り、新幹線より西側ではカントウタンボボが優勢ですが、近年開発されたゴルフ

場や大学にはセイヨウタンボボがかなり入りこんでいます。一方、東側はセイヨウがほとんどですが、旧果樹試験場などにはカントウが生き残っていました。

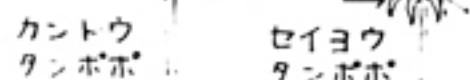
都市化が進んだり、広く開発された所は、花粉なしでも実ができる、また裸地の好きなセイヨウが広がっていきます。しかし、セイヨウは夏に他の草におおわれると枯れてしまうので、カントウの生えている農耕地の草原には入りこむことができません。タンボボでは種類による生活のし方のちがいが、その分布を決めているのです。皆さんのお宅の方では、どちらの種類が優勢でしょうか。

街の中では、セイヨウタンボボのように、外国から入ってきた帰化植物が勢力を持っています。生えている植物の8~9割が帰化植物に占められている所さえあるのです。

平塚市内の  
タンボボの分布

1978. 4~5月 調べ

- カントウタンボボだけ
- ◎ カントウタンボボが多い
- キ々くらい
- セイヨウタンボボが多い
- セイヨウタンボボだけ



→2階展示室「23 雜草の道」を見てください。